

小國神社の見どころ

小國神社とその周辺からは、わたしたちの先祖がいかに自然と共存していたかを垣間見ることができます。神社周辺の自然環境は何百年もの間、慎重に保存されており、この聖地では伐採が禁じられています。本殿に通じる入口に並ぶ巨大な古の木々から静謐な荘厳さが染み渡ってくるとき、神の領域に入るのです。

小國神社の持続可能な建築には自然への敬意が示されています。屋根には地元の木からとった樹皮を用いています。樹皮をとる工程では木を傷つけることはなく、同じ木からまたとれる樹皮は将来の建築に使うことができます。この地域では、貴重な天然資源の供給を絶やさないようにするために何世代にもわたって持続可能性を重要なものとしてきました。

神道の行事の多くは季節の変化を祝って行われます。小國神社で季節の変化を表しているのはその周辺に生育する植物であり、春は繊細なピンクや白の桜の花、夏には深い森の緑、秋には深紅の紅葉、冬には山の野草を見ることができます。小國神社やその周辺を訪れると、日本の伝統的な宗教と自然の保存や崇拝との関連について理解が深まります。小國神社の気品のある木造の神社建築は、本宮山のふもとの深い杉林の中にあります。秋に深紅や金色に色づく紅葉は特に称賛されています。